



試験日に開催されたタッチプールは大人気。子どもたちは、海の生き物を興味深そうに観察していた。

う。それは、釜石市民は魚についての知識がある人が多いが、「こゝ釜石の魚」については意外と知らない場合もあるということ。アイナメやソイといった魚種も、井田さんの中ではメジャーな釜石の魚という認識だったが、思いのほか正答率が低かったという。検定を今後も継続して開催していくことで、「釜石の魚」に詳しい人材が生まれ、増えていくかもしれない。



釜石市平田地区に設置された岩手大学釜石キャンパスでは、釜石市の「学生生活支援事業補助金」を活用し、学生が地域と交流・連携するイベントを実施しています。釜石の特色や地域資源を学生の新鮮な視点で捉え、その魅力を発信する試みは市民からも好評を博しています。今回の記事では、昨年12月に初めて開催された「釜石さかなと海の検定」の内容紹介、学生へのインタビューをお届けします。

(文・釜石市共同研究員 佐々木)

第1回 釜石さかなと海の検定

昨年12月18日(日)、釜石市平田地区に位置する岩手大学釜石キャンパスの一室で、釜石市民たちが真剣な表情で机に向かっていた。視線が注がれる用紙には、「第1回釜石さかなと海の検定」の文字。普段は学生として通う校舎で、釜石キャンパス4年の井田幸助さんは初めてイベント運営側として立つこととなった。

「鉄と魚とラグビーのまち」。市のキャッチフレーズにも掲げられており、魚のまちである釜石で初めて、魚に関する知識を問う検定が開催された。目的は、市民の魚への関心や知識をより深めることで、世界に誇る三陸地域の魚食文化の魅力の再発見につなげ、水産業の発展につながる魚食普及や人材育成を図ること。小中学生の部には9名、一般の部には12名が参加した。

今回の検定開催のきっかけは、釜石キャンパスの齋藤特任専門職員からの提案だった。元々は、地域の魚や魚食文化の魅力を広く伝える強みできる機会を作ることができたと感じたという。また、表彰式では上位入賞者から、「このようなイベントをやってもらえて嬉しい」との言葉をかけてもらい、達成感があつたという井田さん。初めての検定ということもあり、コンパクトな規模感での開催となったが、その分参加者と距離の近い交流ができたと感じている。

「さかなと海の検定」は、来年度以降も継続して開催することを目指している。井田さんは、イベント運営を引き継ぐこととなる釜石キャンパスの後輩に「釜石らしい特色のある問題を作ってほしい。さらに欲を言えば、三陸地域、釜石の出身の人が地元の問題を作るような形ができるとなお良いのでは」と期待を寄せる。

この3月に、釜石キャンパス4期生として卒業する井田さん。3年生後期から1年半の間、釜石で生活した思い出を伺うと、「自然が豊か。秋の紅葉もよく、散歩するだけで楽しかった。海は、研究の場としてももちろん、釣りなども楽しみました」と笑顔を見せた。

第1回「釜石さかなと海の検定」に出題された問題の一部を紹介します。ぜひチャレンジしてみてください！ 正解は紙面最下部の欄外です。

(1) サケ(鮭)の日は次のうちどれでしょう。

- ①11月1日 ②11月11日
- ③11月22日 ④11月27日



真剣に試験に取り組む、一般の部の参加者。問題には見慣れた釜石の地名などが並び。

(2) 次のうち、分類上仲間外れな生物はどれでしょう。



- ①シュウリガイ ②ホヤ
- ③イカ ④ホタテ



上記QRコードから、釜石市のふるさと納税についての詳細をご覧いただけます。

ることを目的に開催されており、全国で3万人以上が受験している「日本さかな検定」を釜石で開催したいと考えていた齋藤さん。ところが、同検定は令和3年の第12回をもって終了することになったという。ならばという気持ちで発案したのが、「釜石さかなと海の検定」。学生に希望者を募り、井田さんが中心となって取り組むことになった。

「釜石」と銘打ったとおり、市内の漁港に実際に足を運び、実態調査を行った上で釜石独自の問題を作成した。苦勞したのは、情報の信頼性の確認。検定として出題するにあたり、不確実な情報を掲載するわけにはいかない。自分たちが知っていた知識や情報で作成した問題についても、情報源は確かなのか、何度も調べ直したという。その苦勞もあり、参加者からは「難しかったが、面白い問題だった」との感想が聞かれた。

今回の検定は、12月に検定試験、年が明けた1月15日(日)に成績優秀者の表彰式を実施した。イベントが複数日程にわたったことで、それぞれの準備に苦勞した面もあったという。「試験が無事に終わっても、採点、表彰式のための準備や調整などにすぐ取り掛からなくてはいけなかった。大変でしたが、学生生活の中ではあまりできない、本当に貴重な経験をさせてもらいました」と井田さんは振り返った。検定を行った中で、井田さんは印象的に感じた部分があったとい

釜石キャンパス学生のイベントに関するお問い合わせ：釜石キャンパス事務室 0193-55-5691

正解：(1) ②11月11日が正解。漢字の「鮭」のつくりを分解すると十一・十一になることから。(2) ②ホヤが正解。ホヤは脊索動物に分類され、それ以外のシュウリガイ・イカ・ホタテは軟体動物に分類される。

